

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第1回高松市下水道事業基本計画（仮称）策定検討委員会
開 催 日 時	令和元年7月12日（金） 午後1時～午後2時
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎3階 302会議室
議 題	(1) 会長及び副会長の選任について (2) 高松市下水道事業基本計画（仮称）の策定について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	—
出席委員	11人 今岡委員、植中委員、浦川委員、小笠原委員、川口委員、氣多委員、末永委員（副会長）、竹中委員、寺尾委員（会長）、橋田委員、山地委員
傍 聴 者	1人（定員5人）
担 当 課 及 び 連 絡 先	都市整備局下水道部下水道経営課 087-839-2765

### 会議経過及び会議結果

#### 議題（1） 会長及び副会長の選任について

高松市下水道事業基本計画（仮称）策定検討委員会設置要綱第5条第1項の規定により、会長及び副会長が選任された。

会長 寺尾委員

副会長 末永委員

以後、同設置要綱第6条第1項の規定により、寺尾会長が議長を務める。

#### 議題（2） 高松市下水道事業基本計画（仮称）の策定について

資料1に基づき、事務局から説明した。

（議 長） 事務局としては、計画期間を10年間としたい旨の提案があり、まず、こちらに対する意見等をいただきたいと思うが、賛成、反対等の意見はないか。

—意見なし—

（議 長） 続いて、策定に当たっての課題、構成案など、また、上下水道事業基本計画と対比する形での説明があり、大きなところで議論をいただきたいと思うが、何か意見はないか。

(副会長)： 下水道担当職員の減少について、平成23年度から令和元年度にかけて、19人減となっているが、これは、第4次職員数の適正化計画に基づき、採用数や退職者数を調整しているのか、若しくは、単に退職した人数が19人あったということなのか。

(事務局)： 23年度に水道と下水道とを統合して、上下水道局となったが、その際、水道部門・下水道部門それぞれに財政部門や契約部門を作るのではなく、一体的に行うこととし、効率化を図った。これに基づき、適正化計画を策定し、その計画どおり、減らしていったということである。

一方で、30年度から分離したことで、また、それぞれそういった部門を別々に作るかといったら、そうではなく、人事部門や契約部門については、既存の組織で行うということとし、引き続き効率化を図っている。

(副会長)： 職員については、今後、増やすといった方向というよりは、減らすという方向といった考えか。また、執行体制の脆弱化という課題が書かれており、技術職員の減少、技術力低下が懸念されるとのことだが、何か対策を講じる予定はあるか。

(事務局)： 職員は減るが、大事なものは、技術を伝承していくということ。今の時代、民間委託など、いろいろな協働といったことがあるので、今の技術を継承しながら、維持管理、整備等の技術が低下しないようにする必要がある。

(委員)： (旧計画)第3章のお客さまニーズについて、これについては、新しい計画の第2章 下水道事業の現状と課題の中に入れるべきと思うが。

(事務局)： お客さまニーズについては、なくすというわけではなく、項目としては改めて出さないということである。第2章の現状と課題や、第3章の基本方針及び目標あるいは、第4章の具体的施策のところ、お客さまニーズの部分が入るという認識である。

(議長)： 最近、気候変動等、ゲリラ豪雨とかの問題があるので、課題の中にそういった点を意識して入れていただき、これを周知・啓発していただくと良いと思う。

(事務局)： 国の方の取り巻く環境というところでも防災・減災対策は、課題が山積みという状況である。前回の計画では、今のような大雨が降ったりする状況ではなかったので、今回の計画には、これらを踏まえた指標を入れていく必要があると思う。現段階では、どのように出すかという点まで検討できていないが、重要要素だと認識しているので、何らかの形で入れていきたいと考えている。

(都市整備局長)： 想定以上の雨が降ったような場合、(高松市の場合、公共事業等の設計は、)1時間当たり42.5ミリの降雨量で設定している。ニュースなどで、1時間当たり60ミリや80ミリの降雨量があったという状況があるが、公共事業は、ある程度計画を決めて作る必要がある。自然災害であるので、それ以上に降ることがあるが、それに対応して公共事業をすると、お金がいくらあっても足りない。ある程度は上限をもって整備を進めていかなければならないところである。

ただし、先程述べたように、自然災害で現に上限を上回るような事態が生じているので、この公共事業は、この基準を満たすように作っているといったことを一般に周知して、それ以上降った場合などには、今、警報の出し方も変わってきており、それを早く周知して、ダムの放流とかの問題もあるが、早く周知して早く避難して

もらうなり、仮設の土のうを作ってもらおうとか、公共事業の設計を超えたものに対しては、適切に周知していきなさいという、国もそういう考え方になっている。

(委員)： 5ページの関連計画について、都市計画マスタープランやコンパクト・エコシティ推進計画があるが、これを下水道の基本計画にどう連携していくかという点に疑問がある、今後、スプロール化するのか、それともコンパクトなまちづくりをするのかということで、下水道はこんなにならないといった話にもなる。

(都市整備局長)： 特に全国的に人口減少となって、高松市だけに限らず、この関連計画の中でも特にマスタープランと多核連携型コンパクト・エコシティということで、人口がどんどん減っていくのに、公共事業をどんどん実施していくと、将来、人がいないところの維持管理費が相当かさんでくるため、30年、50年を見越して、行政も動かなければならない。高松の場合、単なるコンパクト・エコシティではなくて、多核連携。今住んでいる人は市街地に住みなさいとは言わずに、今住んでいる所はある程度核としておいて、そこは、公共交通で連携していく形としている。これを受けて、上下水道局時代に、上下水道事業基本計画を策定し、その中で、都市計画マスタープランや多核連携型コンパクト・エコシティの考え方と整合する観点から、基本的には新たな計画区域の拡大は行わないこととしている。これから策定する計画についても、今ある関連計画と調整を図りながら、やっていく予定である。

(委員)： やはり、財源が厳しくなってくるという中で、市側がこうしたいという具体策があると思うが、お客様側にも、理解や把握してもらいたい点などの内容を入れても良いのではと感じている。

(都市整備局長)： お客様に知ってほしいこととしては、汚水処理に要する経費は、下水道使用料で賄っているということ。

他には、油がそのまま下水に流されると、管の中が詰まってしまい困るということ。そういう内容を、これまでも少し入れている。

(事務局)： 我々は、使用料をいただいて実施している事業であるため、色々な情報を開示しないとイケないということで、少し計画からは外れるが、毎月ホームページでの経営状況の公表やSNSによる情報発信を始めている。

(都市整備局長)： 先月、管路管理総合研究所の協力の下、下水道についての出前講座を小中学校で開催した。これまで、四国での開催がなかったため、高松で一番にやるということで、3回実施した。

このような取組を市民に知ってもらうため、SNSに掲載している。機会があれば、どんどん声をかけていただき、大学や小学生とか中学生とか高専生の若い人達に早くから下水道の状況などを知っていただくということが将来にとってプラスになると思う。

(議長)： こういったことは、計画を作るに当たって、非常に重要な広報のチャンスになるので、どんどん広報してもらいたい。

では、時間もまいったので、議案については、全て議論したということでよろしいか。

**議題（3） その他**

事務局から、今後のスケジュール等について説明

以上をもって、会議が終了した。